

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

プレスリリース

2011年4月

東松照明

TOMATSU Shomei

新宿騒乱

会期：2011年4月21日（木） - 6月11日（土）

オープニングレセプション：2011年4月21日（木）18:00 - 20:00

開廊時間：火-土（日月祝休）12:00 - 19:00



街路樹を演じる
土方巽
1970

MISA SHIN GALLERYでは東松照明の展覧会「新宿騒乱」を開催いたします。

東松照明は1930年名古屋生まれ、米軍基地や、長崎、沖縄など最も社会的な対象をテーマとし、戦後の日本を見つめ続けた、日本を代表する写真家の一人です。

本展覧会では、1964年から1971年、特に1969年のヴィンテージ写真を中心とした20点で構成されます。

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN

tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335

www.misashin.com info@misashin.com

あらゆる価値観が変貌を遂げ、若者が皆何かをせずにはいられなかった1970年前後、新宿は、日本の近代が終焉に向かう高揚感に満ち、混沌とした時代を象徴する場になりました。名古屋の大学を卒業後、東京生活のほとんどを新宿で過ごした東松も、事件に駆け付け、がむしやりにシャッターを切る毎日でした。

本展覧会では、日本が一番熱くエネルギーをたぎらしたこの時代に、写真家として全力で駆け抜けた東松の作品群を展示します。

また、日本における前衛芸術運動が盛り上がりを見せた当時、東松はアーティスト、建築家、前衛舞踏家らと領域を越えた共同創作活動を行っています。

東松照明によって切り取られた時代の断面は、写真家が自らをさらけ出すことで、時代を刻印し、歴史的な痕跡をとどめ、見るものに深い衝撃を与え、写真とはなにか、人間とはなにか、日本人とはなにかと、さまざまな思いをかきたてます。

東松 照明 (とうまつ しょうめい)

1930年、愛知県生まれ、現在は沖縄在住。戦後の日本を代表する写真家。愛知大学経済学部を卒業後上京し、岩波写真文庫でカメラスタッフを経て、フリーランスとなる。1950年代から数々の作品を発表し、近年の写真家に多大な影響を与えた。『時を削る』長崎県美術館(長崎県、2010年)、『東松照明:Tokyo 曼陀羅』(東京都写真美術館、2007年)、『Shomei Tomatsu;Skin of the Nation』サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ、2004年)などの個展が国内外で開催されている。4月23日より名古屋市美術館で回顧展、『写真家:東松照明 全仕事』が開催。

お問い合わせ: 中村・山内 info@misashin.com tel:03-6450-2334

血と薔薇 1
舞踏家 磨赤児 東京
1969



おお!新宿
1969



おお!新宿
1969

